

英語科学習指導案

日時 平成29年10月27日(金) 公開授業Ⅱ
児童 3年生
授業者
授業場

1 単元名 Lesson 6「クッキーをプレゼントしよう！」

2 単元の目標

ゲームなどの様々な活動を通して、“What ○○ do you like?”といった、相手の好みを尋ねる表現を身に付け、友達の好みに合わせたものを選ぶために、相手に応じて質問を変えたり、必要に応じて質問を続けたりしながらやりとりをすることができる。

3 単元について

(1) 単元観

本単元におけるねらいとして重要なことは、児童同士のやりとりを通して“What ○○ do you like?”という新出表現を身に付けたり、相手や状況に応じた“What ○○ do you like?”を考えたりすることである。

本単元は、“What ○○ do you like?”という、カテゴリの中から相手の好みを尋ねる新出の表現や、“sweet”と“bitter”など、味に関わる新出の単語を扱う。既習の“Do you like ○○?”という特定のものが好きかどうかを尋ねる表現であることに対して、“What ○○ do you like?”はカテゴリの中から好みを尋ねるための表現であり、より詳しく相手の好みを聞き、相手に合わせて尋ねる表現のよさを実感できる単元である。

児童が新出の表現や単語を身に付けていくためには、全体で声を合わせリズムにのってまねたり、英語でゲームができるようになったことの喜びを感じたり、友達同士で関わり合いながら繰り返し行ったりし、聞いたり言ったりできるようになっていくことを楽しみながら学んでいくことが大切である。

また、児童がこれまで身に付けてきたことを実感したり、相手に伝わることの喜びを感じながら進んでやりとりしたりする姿を目指すために、様々な既習の単語を組み合わせてやりとりすることや、相手や状況を変えてやりとりをする中で、やりとりを増やしていくなど、表現の幅を広げ、即興的なやりとりにつなげていくことが重要である。

(2) 目指す児童・生徒像

これまで児童は、身近な単語や簡単な表現に慣れ親しみ、各単元におけるやりとりの中でそれらを用いて伝えるという経験を重ねてきている。低学年では単語を中心に慣れ親しんでおり、中学年からは低学年で学習した単語と簡単な表現を組み合わせて伝える経験を積み重ねていく。3年生の単元「すしは好きですか」では、お客となって、メニュー表を基に自分の好きなネタを注文したり、店員としてネタを渡したりする活動を行うなど、場面や状況に応じて表現する学習を初めて行った。場面や状況に応じて、複数のやりとりを伴って表現する活動は今回で2回目となる。児童は、これまで各単元で身に付けてきた単語や表現を点と捉え、それらを新出の会話表現と組み合わせてやりとりすることにより、各単元で学んだことが結びついて、線となって繋がる経験を重ねることにより、言葉を獲得していくと考える。本単元におい

でも、実生活に近いコミュニケーション場面になるような場を設定し、既習の表現や新出の表現を使って場面や状況に応じた表現や伝え方の工夫をすることを通して、身に付けてきたことを自覚し、伝えたいことを積極的に表現しようとする態度を養うことを目指している。

(3) 指導観

上記を踏まえ、本単元では場面（クッキーをプレゼントする側と受け取る側になること）や状況（相手を変えてやりとりすること）に応じて、相手の望むクッキーを選ぶために“**What ○○ do you like?**”や既習の表現を使って好みを詳しく尋ねるやりとりをすることを目指し、相手によってやりとりする表現を選ぶことによって、相手を尊重した表現につながるという思考を促すようにする。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本単元における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

本単元における英語科の「見方・考え方」とは、“**What ○○ do you like?**”という表現に組み合わせる単語を相手の反応に合わせて入れ替えて尋ねることである。この「見方・考え方」は、**A-①・②**による児童の姿を前提とした上で、手立て**I-①**の教師の働きかけにより、学習課題を解決するやりとりになるためにはどうしたらよいかを対話によって見いだすことができると考える。

学習事項を活用し、コミュニケーションの中で必要感を持ち、表現していくための課題設定の工夫～A-①

単元を通して「相手にぴったりのクッキーをプレゼントする」という場面から、相手の好みに合わせてクッキーを選ぶという活動を相手を変えながら複数回行う。1時間目には味の異なるクッキー、2時間目には味・形の異なるクッキー、3時間目には味・形・色の異なるクッキーといったように、クッキーの種類を毎時間増やしながら“**What ○○ do you like?**”を使ったやりとりを行うことにより、児童の「やってみたい」という思いを喚起・継続させられるようにする。このようにクッキーの種類が増加していくことが児童の実態に合った「少しの難しさがあるが乗り越えられそうな壁」として、「やってみたい」という思いを膨らませるようにする。

児童・生徒自身が主体的に基礎基本を身に付けていくための学習活動の設定～A-②

単元の序盤から聞く・まねる・話す活動の構成を工夫することによって、身に付けるべき表現を何度も聞いたり言ったりし、やりとりや表現そのものに自信を持てるようにする。1時間目から味の異なるクッキー、味・形の異なるクッキー、味・形・色の異なるクッキーといったように、クッキーの種類を徐々に増やして“**What ○○ do you like?**”を使ったやりとりを繰り返していくことにより、段階的に新出の単語や表現を身に付けていくことができるようにする。また、毎時間同様の活動を設定することにより、やりとりの仕方に見通しをもつことができ、児童が自信をもって取り組むことができるようにする。

コミュニケーションに必要な態度や知識に気付かせ、言語化させる教師のかかわり～I-①

教師は活動中の児童のやりとりを見守り、“**What ○○ do you like?**”という表現を使って相手の好みにぴったりのクッキーを渡すことができたペアを見本として発表させる。そこで教師が「このペアは、なぜ好みのクッキーをなぜ選べたのか」と全体に問うことにより、「見本のペアが話していた英語表現と相手の好みを結びつけて詳しく尋ねていくと、ぴったりのクッキーを選ぶことができること」に気付くようにしていく。

4 評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ア “What ○○ do you like?” という好みを尋ねる新出の表現を聞いて反応したり、発音をまねようとしていたりしている。 イ “What ○○ do you like?” を使って、進んで相手の好みを尋ねようとしている。	“ What ○○ do you like?” の表現を使ってやりとりしている。		“What ○○ do you like?” がカテゴリーの中から好みを絞って尋ねる表現であることを理解している。

5 学びの過程のデザイン（全3時間）

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
味に関わる新出の単語を、聞く・まねる・話す活動の構成を工夫し、友達と関わりながら繰り返し行うことにより、身に付けていけるようにする。 A-②	1 時間目 <ul style="list-style-type: none"> ・ “What ○○ do you like?” という好みを尋ねる新出表現と出会い、意味を予想したり、使う場面を想像したりする。 ・ “What ○○ do you like?” を使って、味が異なるクッキーを使ってやりとりをする。1/3 知 	
味の異なるクッキーの中から、相手の好みにあったクッキーを選ぶ活動を示すことで、「やってみよう」という児童の思いを膨らませるようにする。 A-①		
ふりかえりにおいて、“What ○○ do you like?” を使って「何ができたか」「なぜできたか」などを問い、相手に合わせて表現できたことを実感できるようにする。 B	2 時間目 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム等を通して、“What ○○ do you like?” を聞いたり言ったりすることに自信をもつ。 ・ “What ○○ do you like?” を使って、味・形が異なるクッキーを使ってやりとりをする。2/3 関ア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の中から “What ○○ do you like?” を使って相手の好みを詳しく尋ねるやりとりの見本を発表させ、相手にぴったりなクッキーをプレゼントできた理由を問うことから、相手に応じて表現を変えるとよいことに気付かせるようにする。 I-①
前時と同様の活動を味・形の異なるクッキーを使って行うことにより、活動への意欲を高められるようにする。 A-①		
前時と同様の活動を味・形の異なるクッキーを用いて行い、活動の仕方に見通しをもてるようにするとともに、段階的に単語や表現を身に付けていけるようにする。 A-②	3 時間目（本時） <ul style="list-style-type: none"> ・ “What ○○ do you like?” を使って、味・形・色が異なるクッキーを使ってやりとりをする。 ・ “What ○○ do you like?” の有用性に気付く。3/3 関イ・表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再度相手を変えて活動させ新出の表現と既習の表現を組み合わせながらやりとりができた児童に見本を発表させ、1回目の見本との相違点を問うことから、やりとりの中に既習の表現が含まれていることに気付くようにする。 I-①
前時と同様の活動を味・形・色の異なるクッキーを使って行うことにより、活動への意欲を高められるようにする。 A-①		
ふりかえりにおいて、“What ○○ do you like?” は何が出来る表現か」「やりとりの仕方はどうして毎回変わったのか」などを問い、相手に合わせて表現できたことを実感できるようにする。 B		

6 本時について（3/3 時間目）

（1）本時の目標

“What ○○ do you like?” を使って、新出の表現と既習の表現を組み合わせながら進んで表現し、相手の好みを詳しく尋ねることができる。

(2) 本時における研究の視点

本時においては、味・形・色が異なるクッキーの中から、相手の好みにぴったりのクッキーをプレゼントするやりとりができた児童の発表を見本とし、「なぜぴったりのクッキーを選べたのか」などと問うことから、児童同士の対話を生み出し、「“What ○○ do you like?” と相手の好みを結び付けて何度か尋ねることで、その相手の反応に応じて表現を変えること」に気付くようにする。その後、相手を変えて再度活動し、やりとりに自信をもった段階で、別の児童の発表を見本とし、「さっきのペアと何が違うのか」などと問うことから、再び児童同士の対話を生み出し、「やりとりの中に既習の表現が含まれていること」に気付くようにする。そのことから、新出の表現と既習の表現を組み合わせながら相手に応じて即興的に表現し、やりとりをするという「見方・考え方」を高めていく。

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導(▲)
<p>1 身に付けてきた表現を復習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言い方を確かめられてよかった。 ・自信をもって言えるようになったな。 ・今回はまたクッキーが増えるのかな。 	<p><input type="checkbox"/> 表現を復習し、言えるようになったことを価値付ける。</p> <p><input type="checkbox"/> 前時の味・形が異なるクッキーに加えて、本時は色が異なるクッキーを増やすことにより、児童の「やってみたい」という思いを膨らませるようにする。 A-①</p> <p><input type="checkbox"/> やりとりで扱う単語を段階的に増やしスパイラル的に身に付けたり、やりとりの仕方に見通しをもったりできるようにする。 A-②</p>	<p>▲不安のある単語や表現がある児童は全体の場で発音などを確認し、自信をもって言えるようにする。</p>
<p>種類がふえてもぴったりのクッキーを選べるかな！？</p>		
<p>3 クッキーをプレゼントする活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部で何種類かな。多くなってもできるかな？ ・何から聞いてみよう。 ・好みの味は何か尋ねることから始めようかな。 	<p><input type="checkbox"/> コミュニケーションを図る上で大切にするジェスチャー等を活動中の児童の姿から確認し、やりとりの中に生かせるようにする。</p>	<p>▲やりとりで不安がある児童は、相手の好みを知らずにはじめに尋ねるといいたいのかなどを一緒に考えて、質問ができるようにする。</p>
<p>4 見本を見て、やりとりできた理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What ○○ do you like?を何回か使って、相手の好みを詳しく聞いたからできたんだね。 ・○○に入る言葉は相手の答えによって変わっていくね。 	<p><input type="checkbox"/> What ○○ do you like?を使って相手の好みを詳しく聞くやりとりができていたペアを見本に発表させ、「なぜぴったりのクッキーを選べたのか」などと問うことにより、相手の好みに応じて表現を変えることに気付くようにする。 手立てI-①</p>	<p>▲やりとりで不安がある児童は、相手の好みを知らずにはじめに尋ねるといいたいのかなどを一緒に考えて、質問ができるようにする。</p>
<p>5 相手を変えて再度クッキーをプレゼントする活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色、形、味について繰り返し相手に尋ねたから、相手にぴったりのクッキーをプレゼントできたよ。 ・What ○○ do you like?を使って、相手の好みを詳しく尋ねることができたよ。 	<p><input type="checkbox"/> ペアを変えて複数回やりとりをさせることにより、やりとりに自信をもって取り組めるようにする。</p>	<p>▲やりとりで不安がある児童は、相手の好みを知らずにはじめに尋ねるといいたいのかなどを一緒に考えて、質問ができるようにする。</p>
<p>6 見本を見て、一回目の見本との相違点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What ○○ do you like?を何回か使ってやりとりした後に、最後に Do you like ○○?を尋ねて確かめているね。 ・もう一度尋ねたいときは、 One more time, please.って言うといいね。 ・今までに習ったことも組み合わせさせて使えるんだ。 	<p><input type="checkbox"/> What ○○ do you like?と既習の表現を使ってやりとりをしているペアを見本に発表させ、「さっきのやりとりと違うところは何か」などと問うことにより、既習の表現と What ○○ do you like?を組み合わせながらやりとりできることに気付かせ、新出の表現と既習の表現を組み合わせながらやりとりし、一層相手に応じた表現になるようにする。 手立てI-①</p>	<p>【関イ・表へ発言・観察・ふりかえりシート】</p>
<p>7 相手を変えて再度クッキーをプレゼントする活動に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで習ったことも使ってやりとりできたよ。 	<p><input type="checkbox"/> ペアを変えて複数回やりとりをさせることにより、既習の表現を想起しながらやりとりできるようにする。</p>	<p>【関イ・表へ発言・観察・ふりかえりシート】</p>
<p>8 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What ○○ do you like?を使うと相手の好み詳しくわかるね。 ・今まで習ったことも使って、相手に合わせたやりとりができたよ。 	<p><input type="checkbox"/> 「なぜやりとりの仕方が変わったのか」「What ○○ do you like?は何ができる表現か」などと問いながらふりかえることにより、What ○○ do you like?を使って、相手に合わせて好みを詳しく尋ねられたことや、相手に合わせた即興的なやりとりができたことを実感できるようにする。 B</p>	<p>【関イ・表へ発言・観察・ふりかえりシート】</p>

